

緑の基本計画の骨子 (今回の資料の概要)

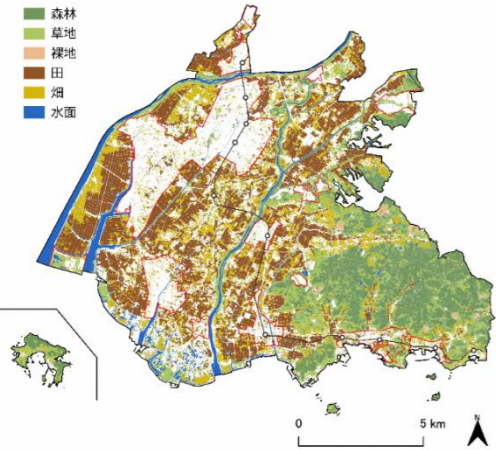
①前回までの検討事項

②今回の検討事項



まちの動向

- 少子高齢化の進行
- 田畑や保安林は減少傾向
- 都市公園は増加しているが整備状況に地域差



市民意向

- 公園に対して満足度が全体的に低く、とくに管理の質に対する評価が低い
- 都市農地に対する肯定的な意見が多数派であり、地産地消だけでなく防災や環境保全など多面的機能への期待

社会潮流

- 量の確保だけでなく質の向上へ施策トレンドが移行
- 持続的なまちづくりの機運の高まり
- 防災や生態系に寄与するグリーンインフラの推進
- 都市農地の位置づけの政策的な転換

緑に関する課題

市の緑の基盤である丘陵・山林や優良な農地の保全・活用

暮らしの質を高める緑の環境の整備

市の魅力を高める緑の保全・活用

まちの安全を担保する河川環境の確保

協働での緑の創出・保全

基本理念

海・川・山・歴史を未来に残し みんなで育む 緑が息吹くまち

基本方針

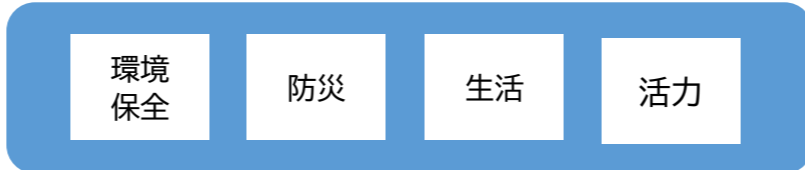
方針① 海・川・山・歴史など各地域の特徴的な緑を活かす

方針② 多面的な機能が発揮される質の高い緑を育てる

方針③ 多様な主体とともに持続的に緑のまちづくりを推進する



緑の系統別の配置計画



施策展開の目標

守る

- 森林の保全
- 海岸の保全
- 河川の保全
- 農地の保全
- 寺社や樹木等、市街地の緑の保全
- 公園・緑地・街路樹等の適切な管理
- 生態系の保全・再生
- 協働での緑の維持管理を推進する環境整備

つくる

- 生態系や防災に寄与する水と緑のネットワークづくり
- 公園・緑地・街路樹等の整備
- 公有地の緑化推進
- 民有地の緑化促進
- 良好な景観の形成(駅前・街路樹等)

活かす

- 公園・緑地(公共の緑)の多面的機能の活用
- 農地・里山等(民有地の緑)の活用促進
- 特徴ある自然を活かした観光地形成

知る

- 緑のまちづくりに対する意識啓発
- 緑のまちづくりを進める手法の周知

取組

具体的な取組は今後検討

緑の基本計画の骨子 見直しの視点（基本理念と基本方針）

ご意見いただきたいポイント

- ・基本理念の表現について、どんなフレーズが西尾に適していると思うか
- ・基本方針の見直しの考え方や、方針の表現について、不足している視点や代案等はあるか。

基本理念

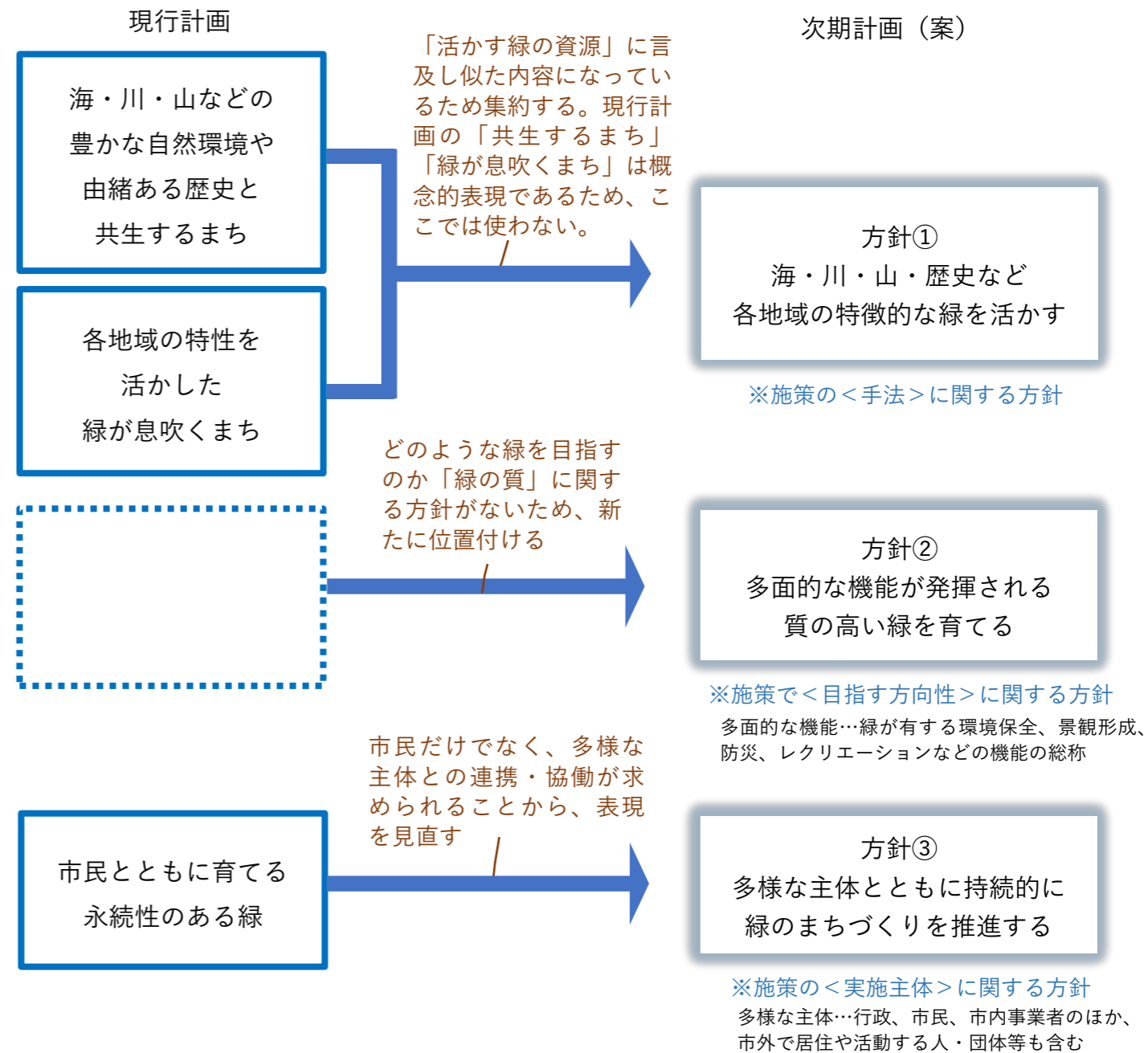
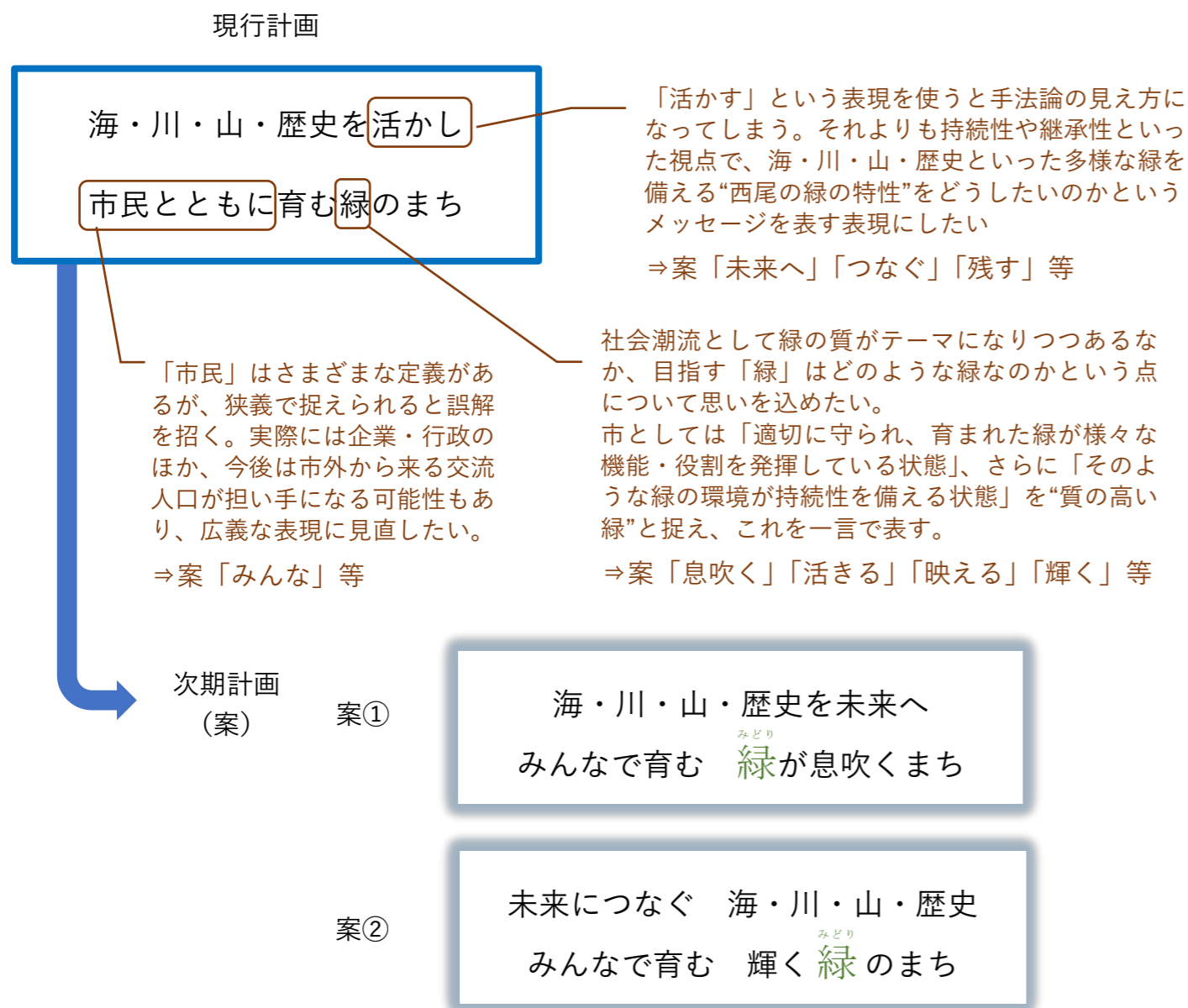
見直しの視点

- ✓ 基本理念は長期的な視座でつくられていることから、現行計画の将来像をベースに検討を行う。
- ✓ 西尾市らしさを表現するフレーズとして「海・川・山・歴史」の表現は残す。
- ✓ 長期的に見て、＜緑の質＞が今後の施策のテーマになっていくことから、緑の質の定義につながる表現を入れる。
- ✓ SDGs や協働のまちづくりの視点から、「持続性」「協働」「共生」「多様性」といった要素を組み込む。
- ✓ 上記のように含むべき視点は多いが、前提として、誰でも分かりやすい表現で将来のイメージ像を伝えることが基本理念の役割であるため、なるべく簡易な表現で、短く、テンポと語感の良いフレーズを採用する。

基本方針

見直しの視点

- ✓ 基本方針は、基本理念をより噛み砕き、施策展開の方向性を示すものであることから、現行計画をベースにしつつも、基本理念の見直しの視点を踏まえて改案。具体的には、「西尾らしさや地域性の保全・活用」につながる要素は1つの基本方針に集約し、新たに「質の向上」につながる要素を方針として柱立てする。また、「市民協働」は基本理念同様に「市民」という言葉を見直す。
- ✓ 以上より「地域に即した緑の環境の形成」「質の高い緑の形成」「さまざまな主体の緑のまちづくりへの参加による持続性の確保」の3つの視点で、方針を整理する。
- ✓ また現行計画の方針は「将来像」と混同しやすい表現が見られるため、より＜将来像の実現に向けた方策＞をイメージしやすい表現へ変え、この後の施策に関する項目につなげていく。



緑の基本計画の骨子 見直しの視点（緑の将来都市像）

ご意見いただきたいポイント

・「点・線・面」の空間配置の視点で将来都市像の見せ方を再整理をすることで問題ないか

・緑の拠点の分類として「歴史文化と調和した緑」、「環境・生態系を守る緑」、「にぎわいを生み出す緑」の3種類でいいか。

緑の将来都市像

見直しの視点

- ✓ 将来都市像は本市の緑の骨格を示すものであり、長期的な視座でつくられていることから、現行計画の将来像をベースに検討を行う。空間配置の視点から、面的な概念である<エリア>、線的な概念である<軸>、点の概念である<拠点>の3つの要素で示す。
- ✓ エリアは、本市の土地利用の構造上、大きく分けて、市街地、郊外の農地、外縁の山林の3層であることから、エリアはこの3区分とする。軸は、エリアや拠点を結ぶものとして、現行計画通り、河川軸や海岸軸、緑化を推進する道路等の軸で整理する。拠点は、市街地のなかを中心に軸の中継地点となり、人や生き物にとって重要な緑のスポットを位置づけます。拠点は性質が多様であることから、歴史文化と調和した緑の拠点、環境・生態系を守る緑の拠点、にぎわいを生み出す緑の拠点の3つで整理する。

◆エリアと拠点の新旧対応

現行計画	次期計画（案）	備考
都市緑化推進エリア	→ にぎわいを生み出す緑の拠点	人の移動の拠点、各地域の玄関口
住宅地等の緑化エリア	→ 変更なし	—
歴史保全エリア	→ 歴史文化と調和した緑の拠点	拠点性が高いため、エリア→拠点に変更
農地保全エリア	→ 農地保全・活用エリア	農地も保全だけでなく多面的機能の活用を期待
山林保全・活用エリア	→ 変更なし	—
海岸保全・活用エリア	→ 変更なし	—
緑の拠点	→ 歴史文化と調和した緑の拠点 環境・生態系を守る緑の拠点 にぎわいを生み出す緑の拠点	性質を踏まえ、3つに分類・整理

次期計画（案）

凡例

緑のエリア

- 山林保全・活用エリア
- 農地保全・活用エリア
- 海岸保全・活用エリア
- 住宅地等の緑化エリア

緑の拠点

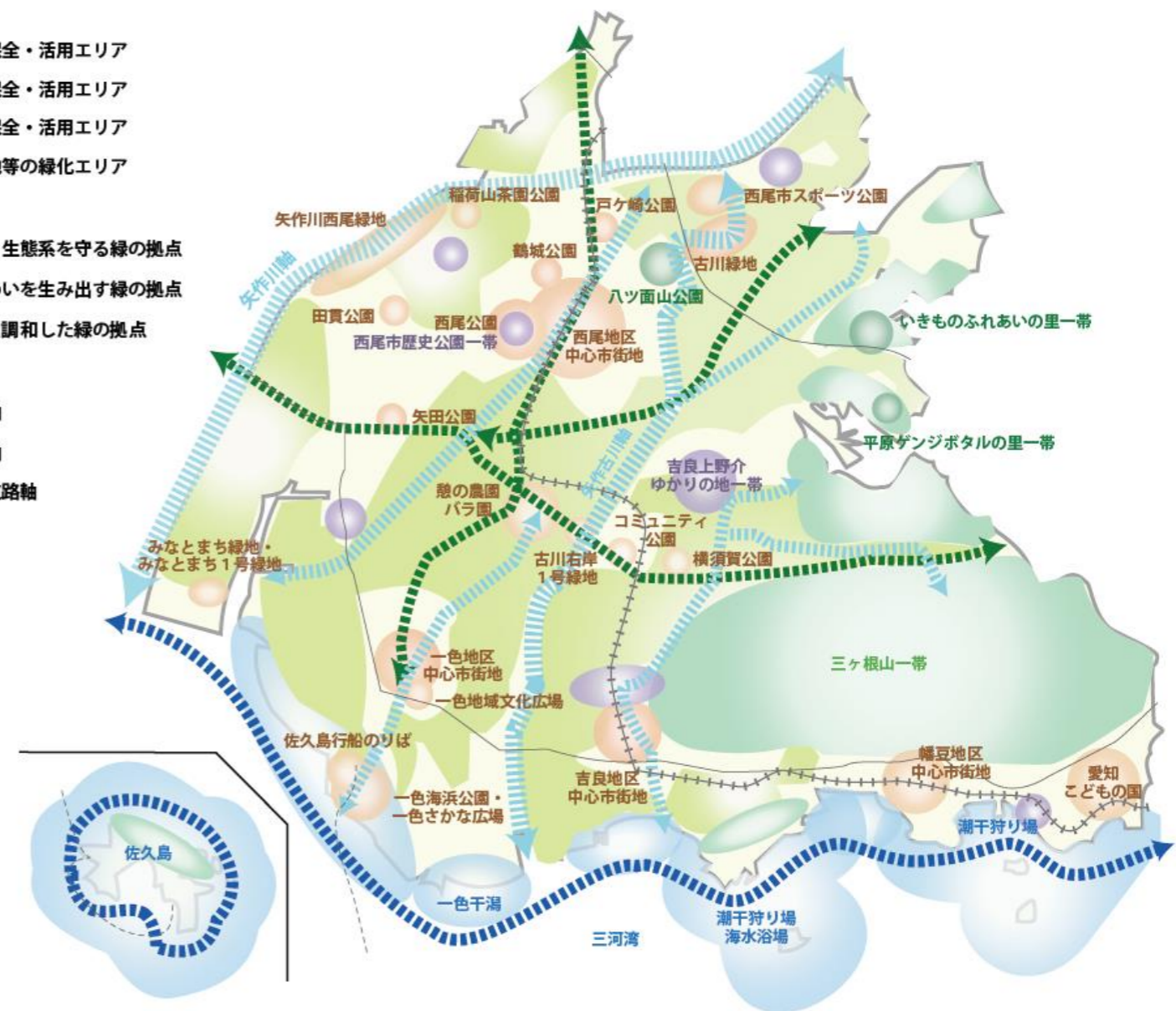
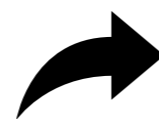
- 環境・生態系を守る緑の拠点
- にぎわいを生み出す緑の拠点
- 歴史と調和した緑の拠点

緑の軸

- 河川軸
- 海岸軸
- 緑化道路軸

現行計画

■緑の将来像図



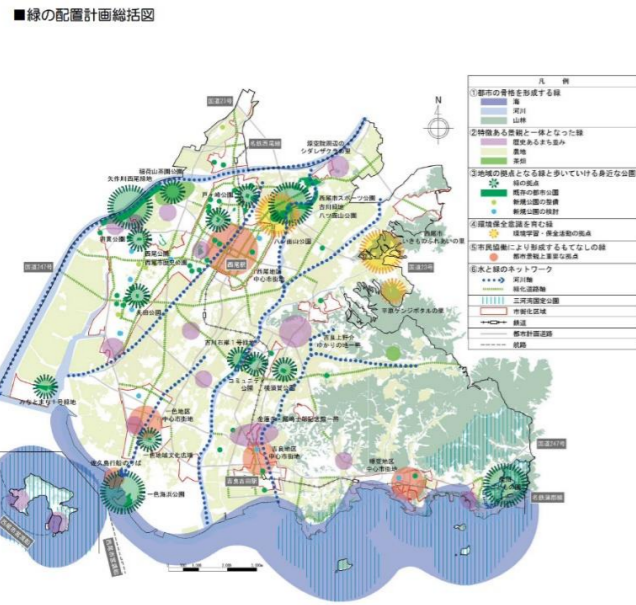
緑の基本計画の骨子 見直しの視点 (配置計画)

配置計画

見直しの視点

✓ 現行計画で示される機能分類<環境保全><防災><レクリエーション><景観>は一般的な分け方であるが、愛知県の広域緑地計画(2019年改定)では課題や方針を<環境><安全><生活><活力>の軸で整理をしている。本市の場合はレクリエーション機能の緑と景観機能の緑が重複する部分が多く、配置方針でも内容が重複する部分も多いことから、県の計画との整合性を図り、<環境><防災(安全)><生活><活力>の4つの系統で改めて緑の配置方針を整理する。

現行計画



次期計画(案)

環境 保全のための緑の配置方針

- 市街地周辺で良好な環境を生み出す緑
- 市街地の内側で都市環境を快適にする緑
- 生態系ネットワーク形成に寄与する緑

防災 力向上のための緑の配置方針

- 広域的に都市を守る緑
- 防災ネットワークとして都市を守る緑
- 避難先として都市を守る緑

環境 防災 レク 景観

良好な都市環境を保全 創出する緑地の配置計画
 災害に役立つ緑地の配置計画
 身近なレクリエーション環境整備と観光に配慮した緑地の配置計画
 もてなしの緑・景観を形成する緑地の配置計画

ご意見いただきたいポイント

・緑の系統を<環境保全><レクリエーション><防災><景観>の4つから、<環境><安全><活力><生活>の4つで組み替えることで問題ないか。(県計画との整合/誰のためのみどりなのか目的の視点から整理した系統軸の設定)

凡例

市街地周辺で良好な環境を生み出す緑

- 海
- 河川
- 山林
- まとまった農地
- 工場周辺の緩衝緑地 など

市街地の内側で都市環境を快適にする緑

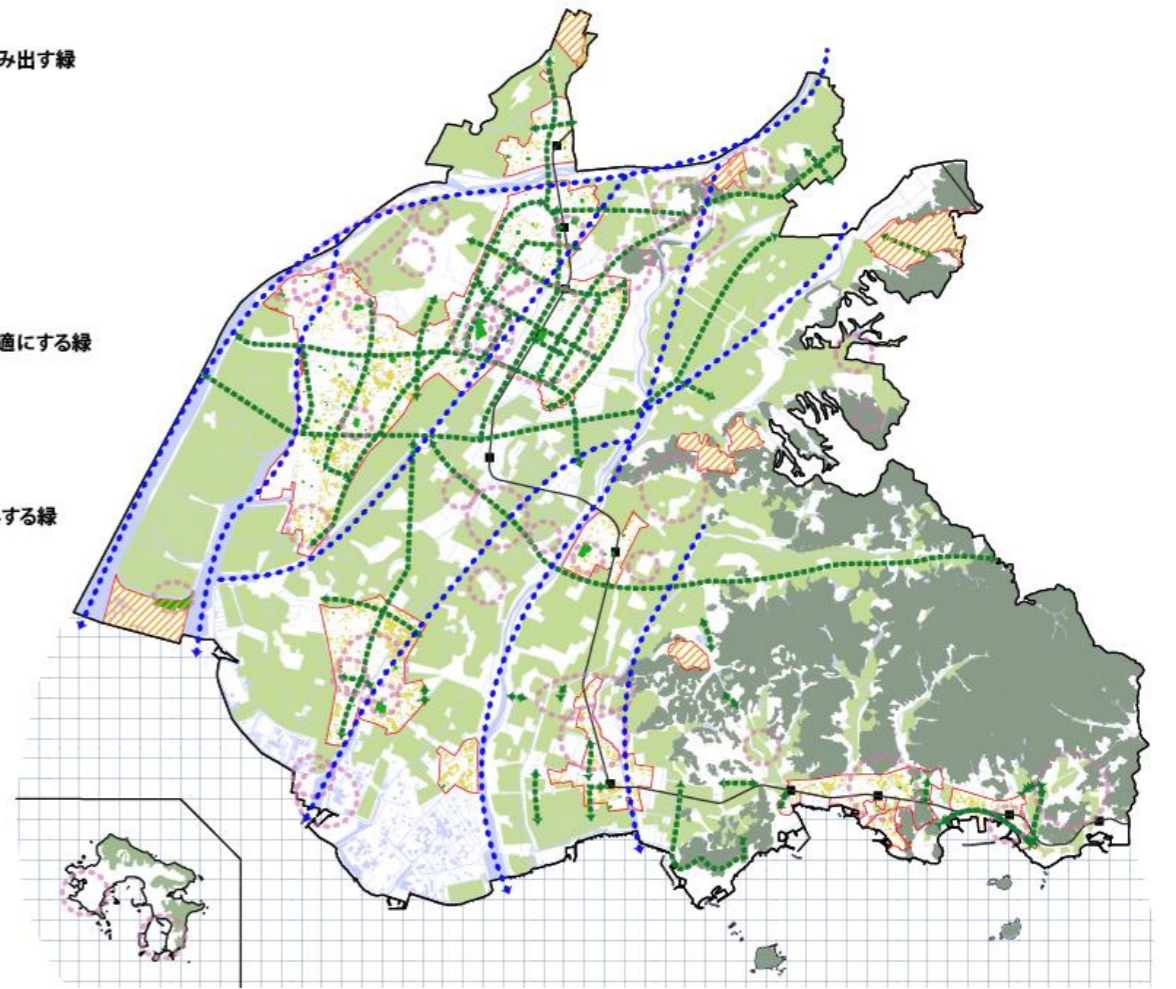
- 主な公共施設の緑
- 都市農地 など

生態系ネットワーク形成に寄与する緑

- 水系の軸
- 緑化道路軸 など

その他

- 緑の拠点



凡例

広域的に都市を守る緑

- 水源涵養機能を有する山林
- 保安林
- 保水・遊水機能を持つ農地 など

防災ネットワークとして都市を守る緑

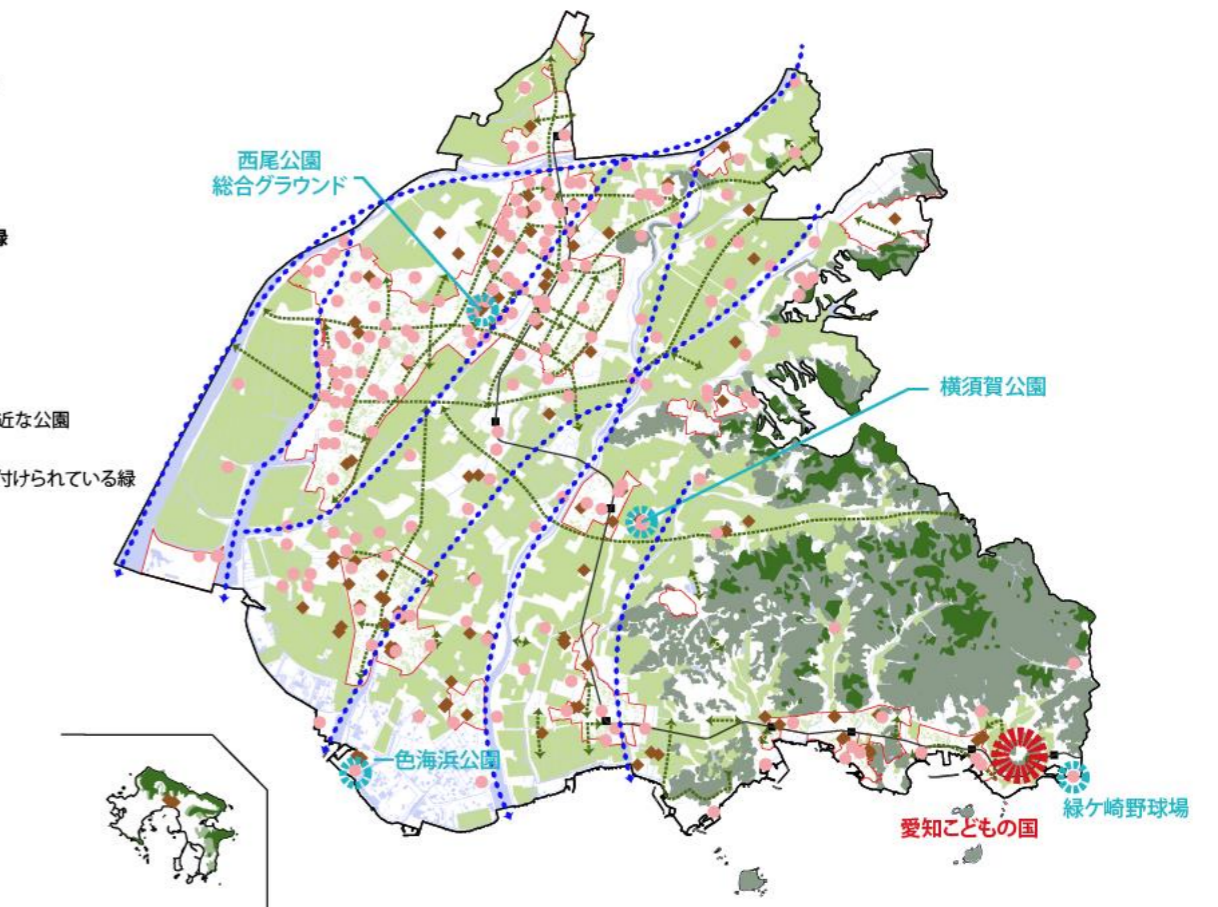
- 延焼を止める河川空間
- 避難路となる緑化道路軸 など

避難先として都市を守る緑

- 一時的な避難場所となる身近な公園
- 地区防災活動拠点
- 地域防災活動拠点
- に位置付けられている緑
- など

その他

- 避難施設



現行計画



環境 良好な都市環境を保全・創出する緑地の配置計画
防災 災害に役立つ緑地の配置計画
レク 身近なレクリエーション環境整備と観光に配慮した緑地の配置計画
景観 もてなしの緑・景観を形成する緑地の配置計画

日常生活を豊かにするための緑の配置方針

- 身近な交流や活動の場となる緑
- 地域を特徴づける景観を生み出す緑

活力を生み出すための緑の配置方針

- 観光拠点となる緑
- 観光レクリエーションネットワークとなる緑
- 生業として活動する緑

凡例

身近な交流や活動の場となる緑

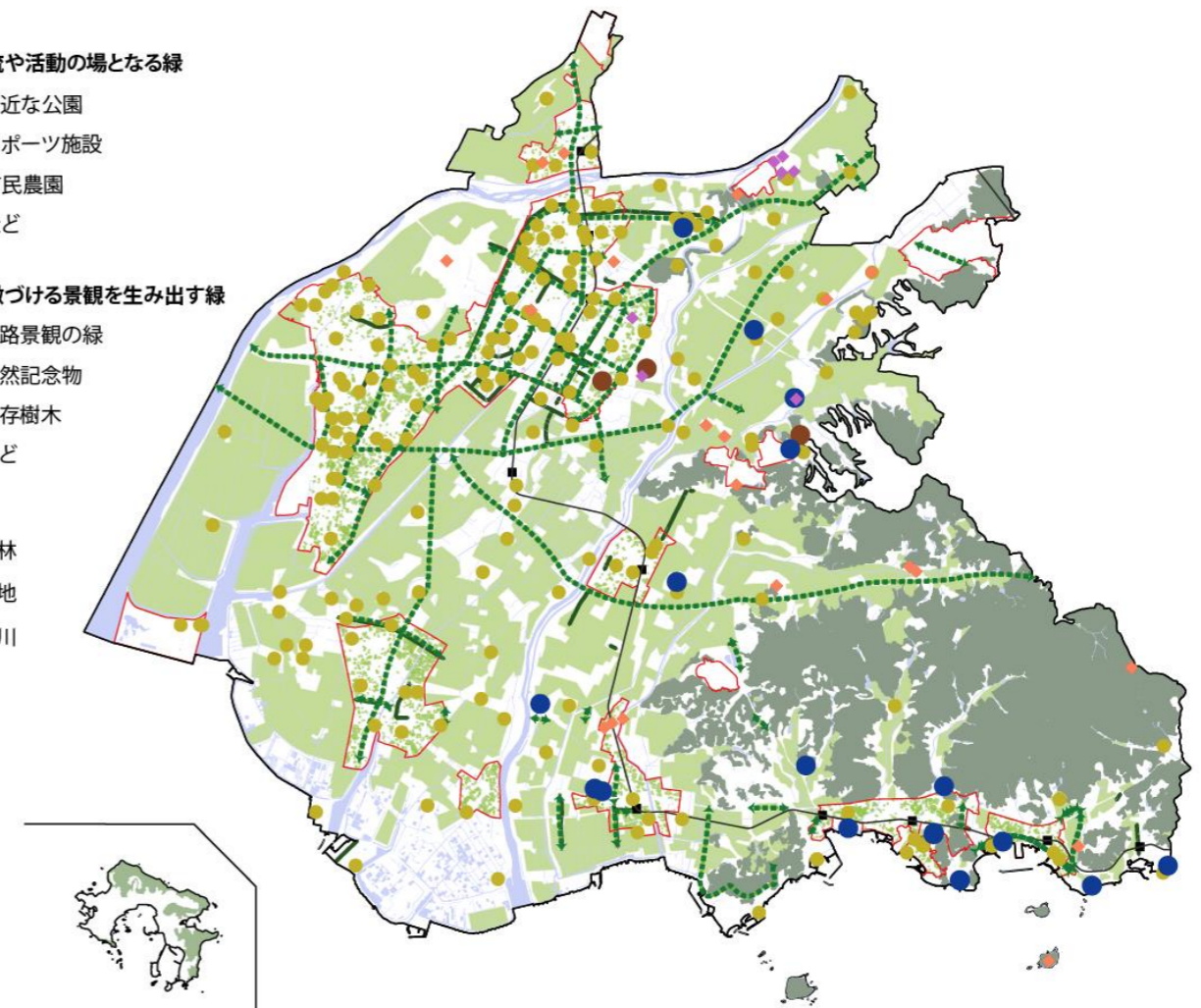
- 身近な公園
- スポーツ施設
- 市民農園
- など

地域を特徴づける景観を生み出す緑

- 街路景観の緑
- ◆ 天然記念物
- ◆ 保存樹木
- など

その他

- 山林
- 農地
- 河川



凡例

観光拠点となる緑

- 中心市街地のおもてなし空間
- 歴史・文化資源と一体となった緑
- 環境レクリエーションの場
- 眺望スポット
- など

観光レクリエーションネットワークとなる緑

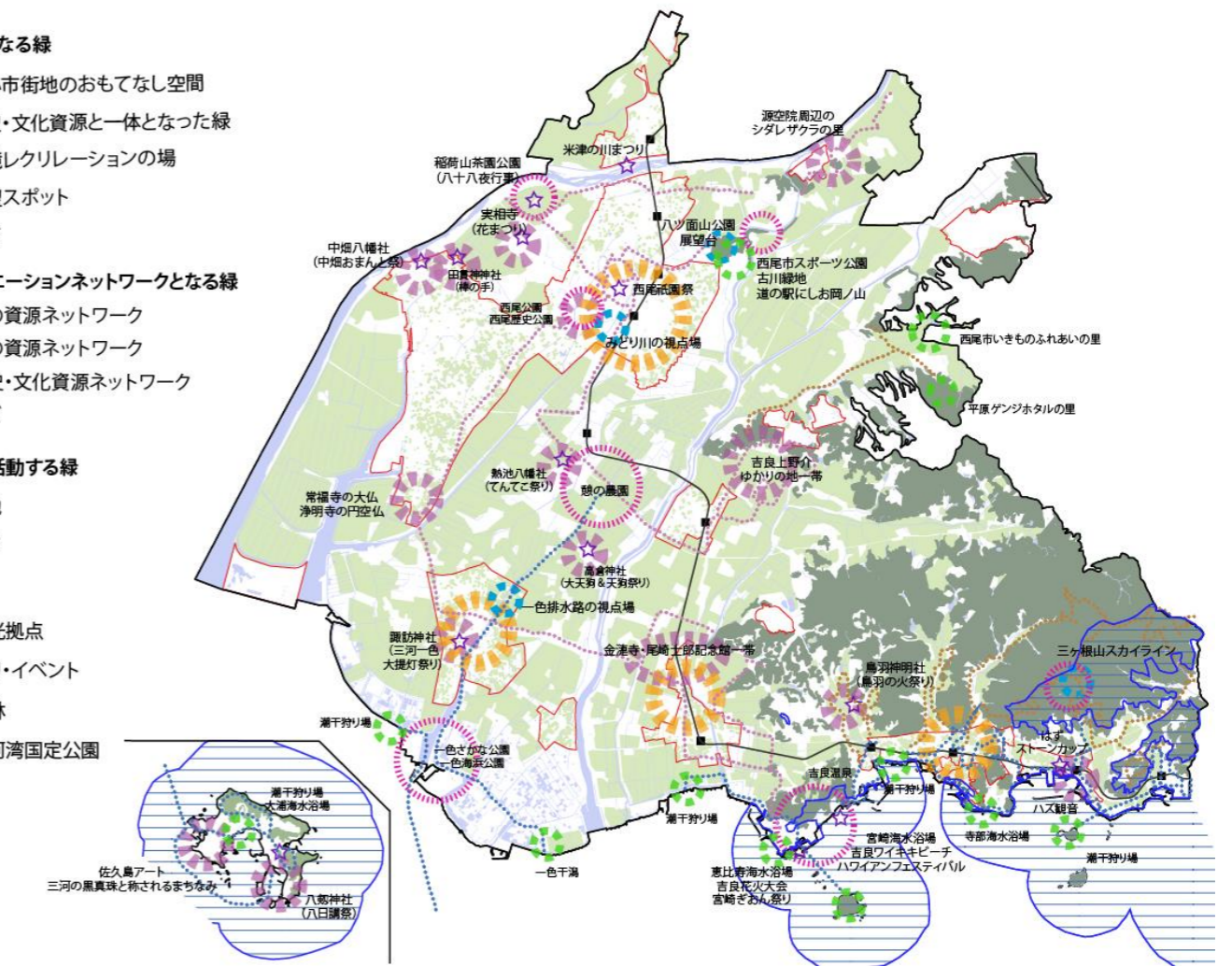
- 海の資源ネットワーク
- 山の資源ネットワーク
- 歴史・文化資源ネットワーク
- など

生業として活動する緑

- 農地
- など

その他

- 観光拠点
- ☆ 祭り・イベント
- 山林
- 三河湾国定公園



緑の基本計画の骨子 見直しの視点（施策体系）

ご意見いただきたいポイント

・ 施策展開の目標設定や施策の一覧について、不足する視点はないか

・ 既に現行の計画でも多くの取組が位置付けられている中で、新たに追加や、現行計画の記載の充実を検討すべき施策はないか

施策体系

見直しの視点

- ✓ 現行計画の施策展開の目標「守る」「つくる」「活かす」「知る」は分かりやすく伝える表現として踏襲しつつ、新たな基本方針をもとに「施策」と「取組」を整理する。
- ✓ 社会潮流や市の課題等を踏まえ、新たな施策を検討する。

次期計画の施策体系

施策展開の目標

施策

取組

守る

- ・ 森林の保全
- ・ 海岸の保全
- ・ 河川の保全
- ・ 農地の保全
- ・ 寺社や樹木等、市街地の緑の保全
- ・ 公園・緑地・街路樹等の適切な管理
- ・ 生態系の保全・再生
- ・ 協働での緑の維持管理を推進する環境整備



具体的な取組をそれぞれの施策に紐づけて記載

つくる

- ・ 生態系や防災に寄与する水と緑のネットワークづくり
- ・ 公園・緑地・街路樹等の整備
- ・ 公有地の緑化推進
- ・ 民有地の緑化促進
- ・ 良好な景観の形成(駅前・街路樹等)



具体的な取組をそれぞれの施策に紐づけて記載

活かす

- ・ 公園・緑地(公共の緑)の多面的機能の活用
- ・ 農地・里山等(民有地の緑)の活用促進
- ・ 特徴ある自然を活かした観光地形成



具体的な取組をそれぞれの施策に紐づけて記載

知る

- ・ 緑のまちづくりに対する意識啓発
- ・ 緑のまちづくりを進める手法の周知



具体的な取組をそれぞれの施策に紐づけて記載

次期計画で施策として新しく位置づけを検討する取組(案)

分類	取組の例	イメージ	効果
守る	・ 立地適正化計画との連携による開発誘導	・ 計画書の中に「立地適正化計画との連携」を明記し、両計画の整合性を記載 ・ 都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定により都市の拡大をコントロール	➢ 民間開発の適切な誘導(農地の保全等)による都市のスプロール化防止
	・ 特定生産緑地制度の活用	・ 都市農地保全策として、生産緑地制度に加え、特定生産緑地制度を追加	➢ 農地の継続的な保全担保
つくる	・ グリーンインフラ整備	・ 雨水浸透性の高いインフラ整備(浸透枘、河川敷緑化等)の整備促進 ※継続 ・ 公園緑地の下に貯水槽を設置し、集中豪雨への対策効果	➢ 効率的で柔軟なインフラ整備と集中豪雨に対する強靱な効果
活かす	・ 循環型社会の構築に向けた取組	・ 剪定枝等のチップ化、落ち葉のたい肥化など ※ 西尾市環境基本計画でもクリーンセンターでの剪定枝リサイクルの推進や生ごみのたい肥化等を位置付け ・ 竹林材や間伐材等の活用検討など	➢ 公園等の管理、里山の活用等への意識醸成
知る	・ みどりのカーテンコンテストの拡大	・ 市民緑地等、壁面緑化に限らず、緑地のデザイン全般に関する評価コンテストを実施 ・ 企業 CSR についても植林や剪定管理等、社員研修としての人手の提供や寄付など。実施した取組について表彰(みどりのカーテンコンテストの拡大)	➢ 多様な緑地に対する評価の幅を広げ、市民・企業活動のモチベーションを上げる
	・ 西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携検討	・ 生態系モニタリングや普及啓発の取組などで連携	➢ 情報発信の相乗効果、効率化
推進方策	・ カーボンオフセットの活用検討	・ 森林整備、植林、緑化活動などの吸収プロジェクトを実施してクレジットを創出・提供 ・ 市民や事業者の取組について情報発信、啓発	➢ 新たな緑の保全管理費用の創出
	・ 森林環境譲与税の活用	・ 森林環境譲与税を活用し、森林整備や保全、木材利用促進の取組を実施	➢ 新たな緑の保全管理費用の創出